【一 般 的 な 規 則】

1．捕球（定義15）、（5.09 (a)(1)）

(1) 野手が、インフライトの打球、投球または送球を、手またはグラブでしっかりと受け止め、かつそれを確実につかむ行為であって、帽子、プロテクター、あるいはユニフォームのポケットまたは他の部分で受け止めても“捕球”とはならない。

(2) ボールに触れると同時、あるいはその直後に、他のプレイヤーやフェンスと衝突したり、倒れた結果、落球した場合は“捕球”ではない。

(3) 野手がボールを受けとめた後、これに続く送球動作に移ってからボールを落とした場合は“捕球”と判定する。

要するに、野手が確実にボールをつかんだことが明らかであれば、これを落とした場合でも“捕球”と判定する。

例えば、ダブルプレイのときにピボットマンがボールを落とした場合、ボールがそのプレイヤーの投げ手に移り、送球の動作に入っていたことが明らかなときには“捕球”と判定する。

しかし、ボールが投げ手に移されようとする状態だったときや、投げ手に移ったばかりで、まだ送球の動作に入っていない状態でボールを落とした場合には“捕球”とはみなさない。

2．投手のグラブ（3.07）

(1) 投手のグラブは、縁取りを除き白色、灰色以外のものでなけれ

ばならない。審判員の判断によるが、どんな方法であっても幻惑させるものであってはならない。

⑵　アマチュア野球では、投手のグラブについては、縁取り、しめひも、縫い糸を除くグラブ本体（捕球面、背面、網（ウェブ））は一色でなければならない。

高校野球では、しめひもについては、グラブ本体と同色でなければならない。ただし、グラブ本体と同系色で目立たないものについては差し支えない。

⑶　投手は、そのグラブの色と異なった色のものを、グラブにつけることはできない。商標については、高校野球用具の使用制限10および規則3.09参照。

3．第三ストライクを宣告されたが、まだアウトになっていない打者走者の扱い（5.05 ⒜⑵【原注】）

第三ストライクと宣告されただけで、まだアウトになっていない打者が、気がつかずに、一塁に向かおうとしなかった場合、その打者は“ホームプレートを囲む土の部分（ダートサークル）”を出たら、ただちにアウトが宣告される。

4．プレイの再開（5.06 Ⓒ⑸、5.12）

⑴　プレイの再開は、ボールを手にした投手が正規に投手板に位置することと、球審が「プレイ」を宣告すること、の二つの条件がそろわなければならない。

⑵　ボールデッドになった後、「プレイ」を宣告するにあたり、投手がボールを手に持って投手板に位置したら、球審は他の塁審および選手にわかるように、はっきりとしたジェスチャーで「プレイ」を宣告しなければならない。

⑶　審判員は、投手が投手板につこうとしないときには、すみやかに投手板につくように指示する。

5．第三アウトと得点『タイムプレイ』(5.08 ⒜)

第三アウトにいたるプレイ中に本塁に進んだ（空過を含む）走者は、次の各場合を除いて、アウトよりも早く本塁に到達した場合には得点が記録される。

⑴　打者走者が一塁に触れる前にアウトにされたとき。

⑵　走者がフォースアウトにされたとき。

⑶　前位の走者が塁に触れ損ねてアウトにされたとき。

〔ジェスチャーの統一8〕

6．走者が得点しようとしたときの打者の反則および妨害行為

(5.09 ⒝⑻、6.03 ⒜⑴)

⑴　正規の投球を、打者が片足または両足を完全に打者席の外に置いて打った場合は、打者を反則行為でアウトとし、走者は投球時の占有塁に戻す。

ただし、バットが投球に触れない場合は、ボールまたはストライクをカウントする。

(2) 三塁走者がスタートしたので、投手が投手板を正規にはずし本塁へ送球した際に、打者がこれを打つなどして、本塁の守備を妨げた場合は、三塁走者に対する守備妨害として三塁走者をアウトにする。

この場合、他の走者は妨害発生時の占有塁に戻す。

なお、二死のときはすべて打者をアウトとする。

7．アウトになった打者、または走者、得点した走者の妨害

(6.01 (a)(5))

(1) アウトになったばかりの打者または走者、あるいは得点したばかりの走者が、野手の行為を妨げた場合は、その対象によって次のようにペナルティを適用する。

① 二人または三人の走者があり、どの走者に対する守備行為であったかがわかっているときは、その走者をアウトとする。

② どの走者に対する守備か、判定しにくいときには本塁に最も近い走者をアウトとする。

(2) 前記により一走者に対してアウトを宣告したときは、ボールデッドとなり、他の走者は妨害発生の瞬間に占有していた塁に帰らせる。ただし、打者が走者となって一塁へ進んだために、走者に一塁を明け渡す義務が生じたときは、その走者を二塁へ進ませる。

８．打者の背後にウエストボールを投げる

（6.01（g）、アマチュア野球内規⑨）

投手がスクイズプレイを防ぐ目的で、意識的に打者の背後へ投球したり、捕手が意識的に打者の背後へとび出したところへ投球したりするような非スポーツマン的な行為は、危険防止の観点からも禁ずる旨の通達が出されている。

このようなプレイがもしも行われた場合、規則上は6.01(g)を適用し、すべての走者は盗塁行為の有無に関係なく、ボークによって１個の塁が与えられ、打者は打撃妨害で一塁へ進ませる。

（走者に関する規則9）